

# 1 生活科の改訂のポイント

## (1) 生活科の目標及び内容の構成の改善

### ① 目標の改善

具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化している。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

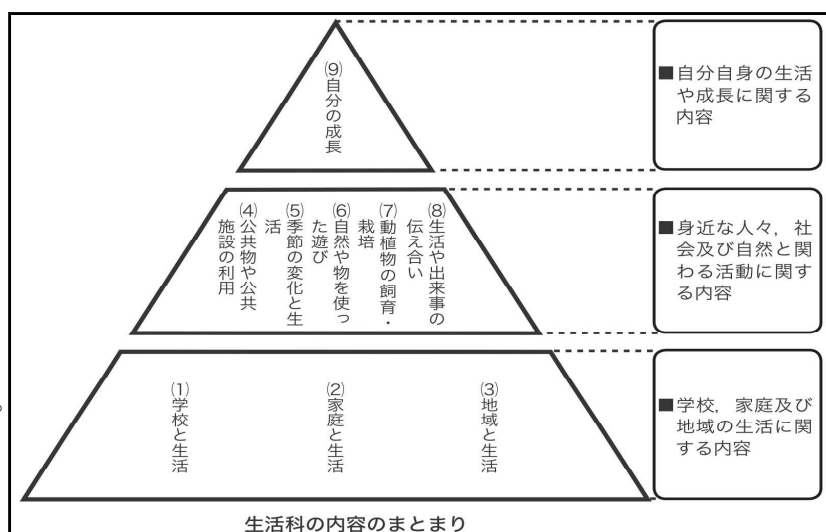
- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

### ※身近な生活に関わる見方・考え方

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

### ② 内容の構成の改善

学習内容を〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕、〔身近な人々、社会及び自然と関わる生活に関する内容〕、〔自分自身の生活や成長に関する内容〕の三つに整理している。



## (2) 学習内容、学習指導の改善・充実

- ① 具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのかが具体的になるよう、各内容項目を見直している。
- ② 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視することとしている。
- ③ 動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視することとしている。
- ④ 各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育

に円滑に移行することを明示した。特に、幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示している。

## 2 主体的・対話的で深い学びからの授業改善の視点に基づいた学習指導

### (1) 主体的・対話的で深い学びからの授業改善の視点に基づいた学習指導

児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動が豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識する。

#### ① 主体的な学びの視点による指導

- ・学校、家庭、地域を学習の対象や場とする。
  - 対象と直接関わることで、興味・関心の喚起し、自発的な取組を促す。
- ・表現を行い伝え合う活動の充実を図る。
  - 表現活動を行う中で、自らの学習活動を振り返る。
  - 振り返ることで自分のよさや可能性に気付く。
  - 自分は更に成長していけるという意欲を高める。(手応え、自信)
  - 新たな活動に生かし挑戦していこうとする児童の姿を生み出す。

#### ② 対話的な学びの視点による指導

- ・生活科は、様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にす。
- ・伝え合い交流する中で、新たな気付きが生まれたり、関係が明らかになったりする。
  - 他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の学びを質的に高める。
- ・対象と直接関わり、対象とのやり取りをする。
  - 感じ、考え、気付くなどして対話的な学びを豊かに展開する。

#### ③ 深い学びの視点による指導

- ・「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実する。
  - 気付いたことを基に考え、新たな気付きを生み出し関係的な気付きを獲得するなどの深い学びを実現する。
- ・気付きの質を高めるための学習指導
  - 1 試行錯誤や繰り返す活動を設定する。
  - 2 伝え合い交流する場を工夫する。
  - 3 振り返り表現する機会を設ける。
  - 4 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする。

### (2) 障害のある児童への配慮についての事項

- ・言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい児童の場合には、その説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるように、体験的な事前学習を行うなどの配慮をする。
- ・みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合は、大切に扱うことの意義や他者の

思いを理解できるように、学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教えるように配慮する。

- 自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難な場合は、児童がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいように、考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにするなどの配慮をする。
- 学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい場合は、学習経過を思い出しやすいように、学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用するなどの配慮をする。

障害のある児童などの指導に当たっては、生活科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、児童の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。生活科においては、上記のような配慮をすることが考えられる。